

平成 20 年度貝塚市地域省エネルギービジョン策定等事業  
第 4 回 貝塚市省エネルギービジョン懇話会

議事摘録

日時：平成 21 年 1 月 21 日（水）14:00～16:00

場所：貝塚市職員会館 2 階 A 会議室

出席者

(委員)

金子 泰純	和歌山大学准教授
池田 由起	甲南女子大学非常勤講師
南村 明男	貝塚商工会議所専務理事
和田 明宏	貝塚市町会連合会副会長
南川 公宏	貝塚市町会連合会副会長
高月 和義	大阪ガス株式会社エネルギー事業部南部エネルギー営業部 都市エネルギーチームマネジャー
藤原 龍男	貝塚市副市長
西 敏明	貝塚市教育長

(オブザーバー)

船富 健志	大阪府住宅まちづくり部公共建築室設備課課長補佐
高橋 久光	財団法人省エネルギーセンター近畿支部事務局次長

(事務局)

貝塚市環境生活部環境政策課

木岡環境生活部長、田中課長、中野課長補佐、明瀬主査、西出主査  
鈴木課長補佐(学校人権教育課)

株式会社地域計画建築研究所(アルパック)

畑中計画部長、山口客員研究員

欠席者

山田 勉	関西電力株式会社大阪南支店お客様室エネルギー営業グループ部長
笹山 清志	経済産業省近畿経済産業局資源エネルギー環境部 エネルギー対策課省エネルギー対策官課長補佐
石田 博文	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 関西支部事業管理部新・省エネグループ主幹

傍聴者 なし

## 第4回貝塚市省エネルギービジョン懇話会次第

日 時：平成21年1月21日午後2時

場 所：貝塚市職員会館2階A会議室

1. 第3回懇話会の議事内容について

(資料1)

2. パブリックコメント実施結果について

3. 貝塚市地域省エネルギービジョン(最終案)について

(資料2・3)

[88ページの追加・資料編の追加]

4. その他

(資料4)

### 配布資料

資料1 第3回懇話会議事録

資料2 貝塚市省エネルギービジョン(最終案)

資料3 貝塚市省エネルギービジョン 資料(最終案)

資料4 ESCO事業実施フロー

当日資料 パブリックコメント実施結果

### 1.第3回懇話会の議事録について

○事務局より説明

### 2.パブリックコメントの実施結果について

○事務局よりパブリックコメントの実施結果の説明

金子委員長 パブリックコメントの意見は市の環境政策全体に対する意見として出たものと捕らえている。今年度策定の重点ビジョンは、市施設の省エネと小学校の環境学習に焦点を合わせていることから、この意見に重点ビジョンの中で応えることは難しい。ただし、非常に良い意見であるので、意図を汲み取ることとは出来ないだろうか。

委員 学校は従来から総合的な環境学習を行っており、パブリックコメントに載せられているような環境学習も既に各学校で行われている。しかし、省エネビジョンではあくまで省エネに限った環境学習という前提なのでそれらの取り組みは記載していない。

委員 市全体でも総合的な環境学習を行っている。重点テーマにかかる省エネビジョンは、省エネに重点を置いて作成している。

委員 環境学習を始めた当初は全ての小学校でケナフを植えるなど様々な取り組みを実施した。しかし、今回の重点ビジョンの内容は、省エネに重点を置いていることから省エネ以外の環境学習の記載を見送った。

金子委員長 今回の重点ビジョンの経緯・目的を省エネに重点を置いたものであるということに記載し、今まで実施してきた省エネ以外の環境学習についても第2章で少し触れてはどうか。

委員 例えば12ページの図の前に、市として多くの環境学習を実施していることを記載してはどうか。

金子委員長 環境学習という概念が広すぎて誤解を生んでいる。4ページの「1. 小学校への環境学習の導入」という表現は修正が必要ではないか。例えば「1. 小学校の環境学習への省エネ関連プログラムの導入」にしてはどうか。更に6ページの環境学習事例に今までの事例を多く紹介していただき、これに新たな

省エネ関連プログラムを導入するというニュアンスを追加してもらいたい。

事務局 近木川での環境学習の事例などを追記し、今回は省エネに限った新たな環境学習プログラムを作成するという表現に修正する。

事務局 本懇話会の議論を反映して、正副委員長に確認していただいたうえで、パブリックコメントに対する市の意見の公表を行う。

金子委員長 ESD はあまり知られていない言葉なので、ここで認知していただくためにも上手く説明してもらいたい。

事務局 用語解説で ESD の説明を行う。

### 3.貝塚市地域省エネルギービジョン(最終案)について

○事務局より省エネルギービジョンの説明

○事務局より概要版の修正を行う旨の報告

#### オブザーバー

20 ページに本年度中に環境学習プログラムを作成するとあるが、本ビジョンでプログラムを作成するのか。あるいはビジョンとは別のものか。

また 88 ページで市施設の順番が変わっている。これは省エネ事業の可能性の高い順番が変わっていると考えられるが、その記載が必要ではないか。ハッチング（網掛け）を 15%以上の省エネ率にかけているのなら、市民図書館の STEP1+STEP2 にもハッチングが必要ではないか。設備工事費当たりの CO2 削減量は、市立貝塚病院が非常に高い。病院は延床面積当たりのエネルギー消費量が多いため、ESCO の効果が高い。市役所 本館、別館も設備工事費当たりの CO2 削減量が高い。そこで ESCO の募集要項作成時には市民福祉センターは必ず ESCO を実施し、病院や本館、別館も同時に提案することが可能とすれば、業者さんの参加意欲が高まるのではないか？

委員 現場を見てみないとなんとも言えない。この省エネ率の数値についてはガイドだと考えられるので、別の業者が省エネ診断を行えば異なる値が出てくると考えられる。

金子委員長 88 ページの市施設の順番は以前と同じにしてもらいたい。省エネ事業の可能性の優勢順位を右列に記入してはどうか。市民図書館の STEP1+STEP2 にも

ハッチングを付けハッチングが何を意味しているかの説明も必要である。設備工事費当たりのCO2削減量は、市立貝塚病院が非常に高いが、これはどうか。

事務局 国（NEDO）の補助対象としては、省エネ率が15%以上必要であると考えられるので、病院が対象外になっている。

オブザーバー

環境省の補助を狙うならCO2削減量が高いほうが良いと考えられる。ハッチングは必要ないのではないか。

事務局 環境省の補助対象の条件が、先進的かつ先導的な温暖化対策技術の導入となっており、これに該当させるには設備費用の面などから厳しいと考えられる。

金子委員長 環境学習プログラムはすでに出来ているのか。

事務局 プログラムは案としては別途作成している。すでにモデル校での実施も済みであり、現在はプログラムの修正を進めている段階である。

委員 プログラムは、本年度末（3月末）までに修正して、完成させる予定である。

金子委員長 20ページの文章を精査してもらいたい。

委員 86-87ページの他自治体との比較は他市施設に関する詳細情報など不要と思われる部分が多く、81ページの全国平均エネルギー消費原単位の表で代用できるので削除してもいいのではないか。

事務局 86-87ページは削除する。

金子委員長 フォントの統一を行ってもらいたい。

事務局 フォントを統一する。

委員 省エネ、経費削減は進めていかなければならない問題であるが、全体的にビジョンが出来てから実際動き出すまで時間がかかりすぎる。

委員           ご指摘のとおりである。しかし、ビジョン作成後、業者選定や国への補助申請など一定の手続きを踏まなければならない、現状の流れではやむを得ない。

委員           初期ビジョン内での「事業所でのモデルアクションの推進」の記述が今回の重点ビジョンでは見当たらないが、これはどう進めていくのか。

委員           今回の重点ビジョンでは取り上げていないが、これも大事なことなので今後検討していきたい。

委員           1 ページの「本調査」という表現は違和感がある。

事務局       「本調査」を「本ビジョン」に変更し、本ビジョンの定義を記載する。

金子委員長   事務局には懇話会の内容を踏まえ、早急に内容を修正していただき、確認は正副委員長に一任していただきたい。

#### 4.その他

事務局       今後の ESCO 事業の流れを説明

委員           平成 27 年度に平成 17 年度比の 3%削減ということだが、これのチェックはどう行うのか。

委員           ホームページ等で達成状況を掲載する。

第4回貝塚市省エネルギービジョン懇話会論点整理

項目	意見要旨	応答、対応の方向
パブリックコメントについて	パブリックコメントの意見にあった、ESD の概念や貝塚市内での環境学習の取り組みについて、本ビジョンの枠内で、意図を最大限汲み取るようにすること	今回の重点ビジョンの中の環境学習は、省エネに特化したものであることを明記した上で、最大限意図を汲み取るようにする。
報告書最終案について	語句の定義や図表の説明等を更に見直す必要がある	報告書を再度見直し、本懇話会の意見を元に修正を行い、正副委員長に最終確認していただく